

都内九段下の CORSO

いわゆるギャラリー難民が増えている。フォトギャラリーキタムラは向こう2年間はスケジュールで埋まっている。ポートレートギャラリーは申し込みが急増し審査制を導入する。メーカー系ギャラリーは審査があり開催期日を選べない。とはいえ、レンタル料さえ払えば、リーズナブルな価格で写真展を開催できる。当たり前のことではあるが、ようやく写真業界も当たり前のフォトサロン/ギャラリー環境になりつつあるのだろう。

そのリーズナブルな料金で、広く作品展示を募っているのが「CORSO」。先日、タムロン写真同好会のグループ展が開催され、訪れる機会を得た。「これなら」と納得して運営会社の羽陽美術印刷を取材することになった。この親会社が東京リスマチック。

写真系が80%を占めグループ展に格好の場

都内の目抜き通りに出店しているプリンティング企業。担当の羽陽美術印刷の福田勝代表にお会いした。

開館すでに1年間が経過している。そのこけら落としに、やはりタムロン写真同好会が写真展を開いている。これがひとつの典型で、羽陽にとって同社は長い間の顧客で、その関係で写真展を開催しているわけだが、社名に美術印刷とあるように、その得意先は幅広く、デザイナーや写真家の声に応える形で、ギャラリーを開設した。

そんなわけで、一見アート系のギャラリーか、とも思うが、実際は違う。「開設1年が経ちましたが、軌道に乗り始めたのは8月ぐらいからで、ようやくスケジュールが埋まるようになってきました。現在までのところ写真が80%です」と意外な答えが返ってきた。つまり写真が主体のギャラリーとなっており、他の写真系ギャラリーとも

連携して、グループ展の受け皿ともなっているというから心



コルソの入口はこんなスタイル

強い。

御託はこれくらいにして、場所はどこ、と知りたい向きに応えよう。半蔵門線の神保町駅九段下寄りの真上。城南信用金庫の隣の日建ビル3階。築30年以上とビルは老朽化が進んでいるが、エ

レベーターがあるから搬

入搬出は楽だ。ビルの1階には咖啡馆があるから分かりやすい。ただ明確な開催内容の表示場所がなく、現在はビルの組合と調整中とか。

さて、3階に上った。ワンフロアすべてがギャラリーで、中央に入口があって振り分け式。壁面はコンクリートむき出しで倉庫風でもある。左手奥にテーブルや椅子があり、フォトサロン機能を備え、冷蔵庫などもあって飲食も可能だ。スペースは広く、かなりの員数のグループ展でも十分に展示が可能となっている。肝心のレンタル料は1週間5日計算で10万円。土・日・祭日は1日2万円としている。むろんこれは要望があればということで、鍵の管理と搬入などの手間賃も含んでいる。近所にリスマチック支店があり、日曜日でも担当者が常駐しているため相談可能。

展示プリントか後加工を合わせて5万円以上注文すれば、使用料の10万円は6万円に減額される。あらゆるサイズのプリントから後加工までをセットで注文できる便利さだ。

最後に CORSO の意味は、と聞くと「イタリア語で大通り、流れること、時間の経過また儀式的な習慣という意味があり、神保町から九段に続く人々の行き交う大通りに面していることから名付けました」と、なかなか意味深い。問い合わせは電話 03-3265-9631 へ。

